

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
個人研究費
2007年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名
	文学部・教授	蔵持重裕印
研究課題	歴史における生活・生態史の連鎖と断絶 - 水辺集落の構成と展開・琵琶湖畔集落を事例に -	
研究期間	2007年度	
研究経費	500千円	

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

琵琶湖畔集落の研究の基礎的な作業として、史料の調査を行った。具体的には7月23日から25日の期間、蔵持重裕、協力者の黒田基樹、遠藤ゆり子、長谷川裕子の4名で「菅浦文書」の調査を行った。文書は滋賀大学経済学部附属史料館に所蔵されているので、史料館で、約120点の文書(全体では1260点ある)を、1点1点調書を取ってデータ化した。また、その補足調査として、11月14日から16日まで遠藤が、2008年3月13日から15日まで蔵持重裕が調査をした。

これらの文書は、黒田・遠藤・長谷川が翻刻し、5月までには滋賀大学経済学部附属史料館の『研究紀要』に発表する予定である。

菅浦と小松の現地調査は時間・費用的に実施ができなかった。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[近江国菅浦村] [中世古文書] []

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

史料調査の段階であるので、最終的な課題である生活・生態にまで発言できないが、

- ① すでに活字化されている刊本では確認できない、文書の料紙・封・墨色・汚れ、加墨・訂正など文書の成立の過程、文書の物質資料としての考古学見知からの情報が豊富に得られた。
- ② この中で、約30点に及ぶ、断簡とされ、差し出し人などが特定されていない文書の接合関係が、田中克行氏の『中世の惣村と文書』に基づき確認し、それが確認された。

以上の2点を記しておきたい。

研究成果の概要 (つづき)

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

この史料調査については、滋賀大学経済学部附属史料館紀要『研究紀要』に83点分を発表する。